

電子資料

電子ジャーナル、電子ブック、データベース等

平成25年度東海地区大学図書館協議会
図書館職員基礎研修（第4回）12月13日13：50-14：40

名古屋工業大学学術情報課 林 和宏

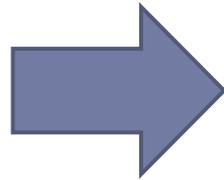
本日の内容

- 学術情報流通の変化
- 電子ジャーナル
- その他の電子リソース
- 電子リソースの提供
- 課題
- オープンアクセスとリポジトリ



はじめに

- 例えば、Natureをオンラインで提供する
場合....



はじめに

- 利用方法は？
- 利用対象者は？
- 購読方法は？
- 契約の内容は？

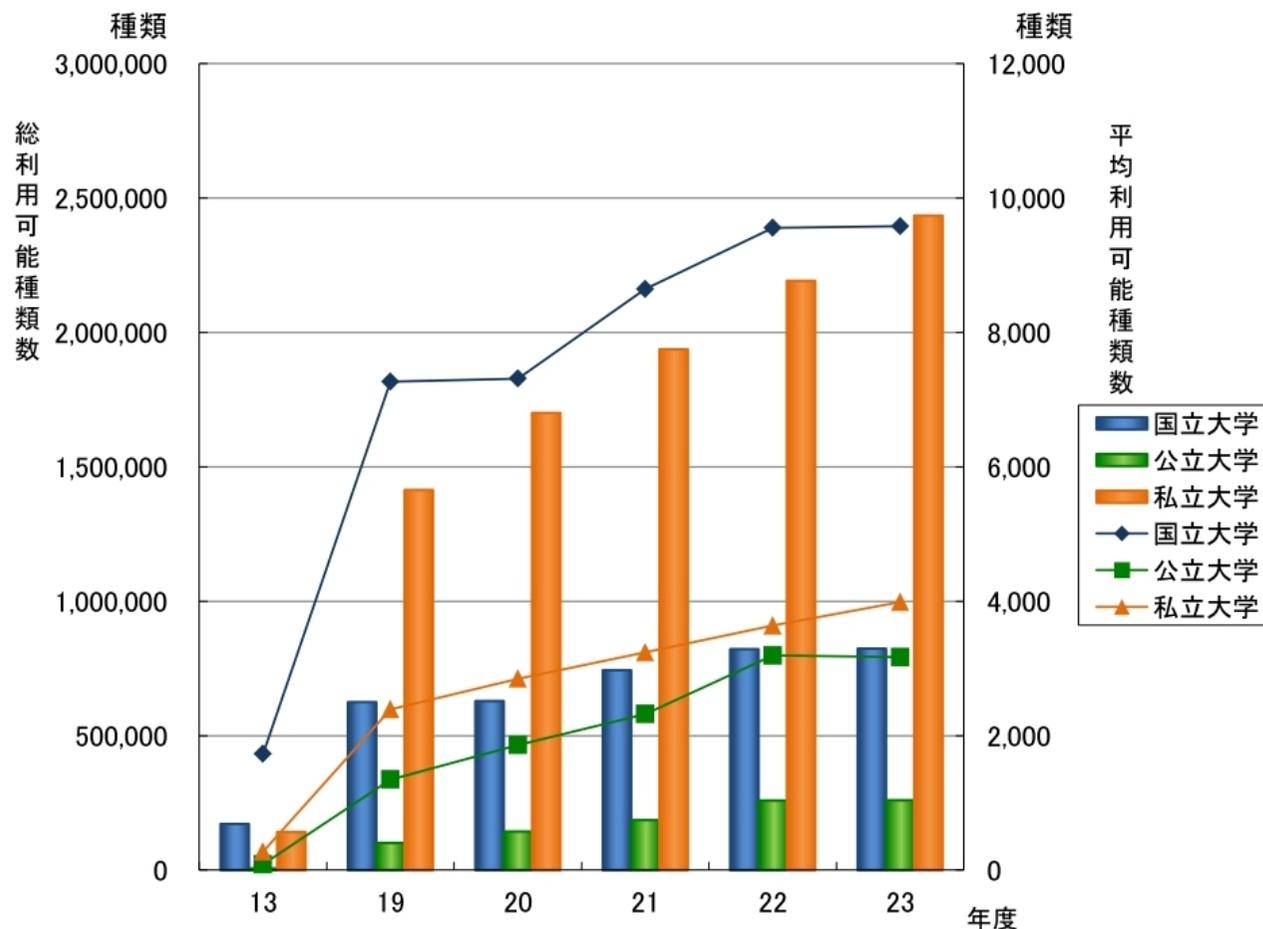


学術情報流通の変化

- 論文数の増加、新規タイトルの増加
特に新興国の論文生産量増加
- 海外学術雑誌の価格高騰
→ シリアルズ・クライシズ
- 電子ジャーナルの普及
- セルフアーカイビング
プレプリントサーバ、リポジトリ
- オープンアクセス誌



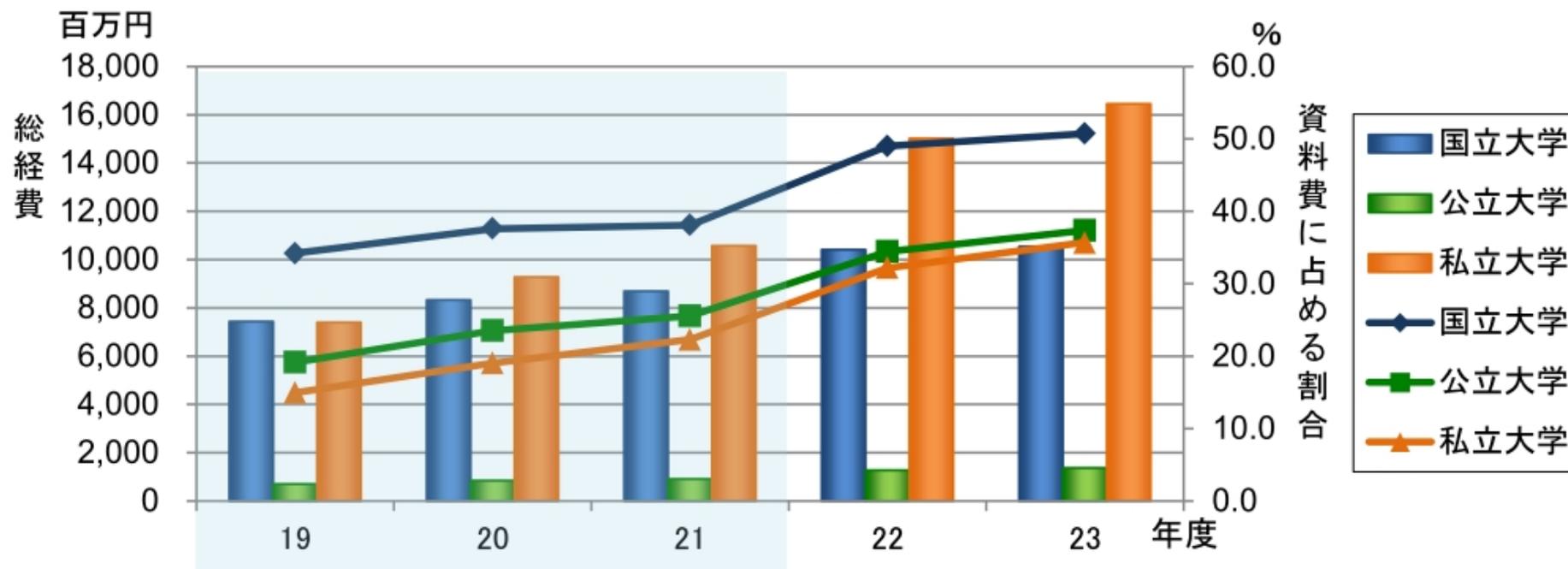
学術情報流通の変化



文部科学省 学術情報基盤実態調査 平成24年度結果の概要

(1) 電子ジャーナルの総利用可能種類数と平均利用可能種類数 より引用

学術情報流通の変化



文部科学省 学術情報基盤実態調査 平成24年度結果の概要
(3) 電子情報資源経費の総額と図書館資料費に占める割合 より引用

電子ジャーナル

冊子体と電子ジャーナルの比較(利用者側から)

	冊子体 (紙媒体)	電子ジャーナル
入手スピード	輸送時間などがかかる	基本的にタイムラグがない
利用場所・時間	図書館の利用条件による	図書館の外でも 24 時間使える
複数人の同時利用	不可	多くの場合可能
メディア・ネットワーク環境の制限	なし	あり。ネットワーク環境とパソコンなどのメディアが必要
利用に必要なノウハウ・スキル	OPAC などの目録を検索する方法	検索方法, 提供ポータルでの使用方法
将来的な利用の保証	手元にモノがあるため安定	コンテンツは提供側にあるため不安定
その他	ブラウジングがしやすい	<ul style="list-style-type: none">・本文検索や他論文へのリンクアウトが可能・動画・音声など表現の多様性

電子資料契約実務必携 p.23 表2-1 より引用

電子ジャーナル

冊子体と電子ジャーナルの比較(図書館員側から)

	冊子体 (紙媒体)	電子ジャーナル
受入業務	1冊ごとの受入業務が発生, 欠号の督促が必要	なし。欠号も生じない。ただし, アクセス障害対応は必要。
購入単位	基本的にタイトル単位の購入	タイトル単位のほか, パッケージでの購入や論文単位での購入も可能
購入予算の出所	研究室や学科単位など, 購入したいところがそれぞれ支出	パッケージを全学共通経費で購入する大学もある
物理的スペース	必要→書架の狭隘化の問題	不要
目録業務	受入ごとに所蔵を修正	毎年変更があるため, 利用可能タイトル・範囲の管理が必要
利用統計	取得するのが困難	多くの場合, 取得できる

電子資料契約実務必携 p.23 表2-2 より引用

電子ジャーナル

契約のポイント

- 購入者別
 - 個人購読 Personal Subscription
 - 機関購読 Institutional Subscription
- 機関種別
 - 学術機関 Academic
 - 企業 Corporate
- FTE(Full-Time Equivalent)
- Tier/Band
FTE、大学規模、サイト数、DL数等によるランク分け



電子ジャーナル

契約のポイント

- 認証方法 → 通常はIP認証
- 同時アクセス数
- シングルサイト/マルチサイト
- 形態別
 - 冊子体 Print
 - 電子ジャーナル Electronic
 - 冊子体+電子ジャーナル P + E
- アーカイブ権(契約期間終了後のアクセス権)
- リモート接続



電子ジャーナル

販売単位

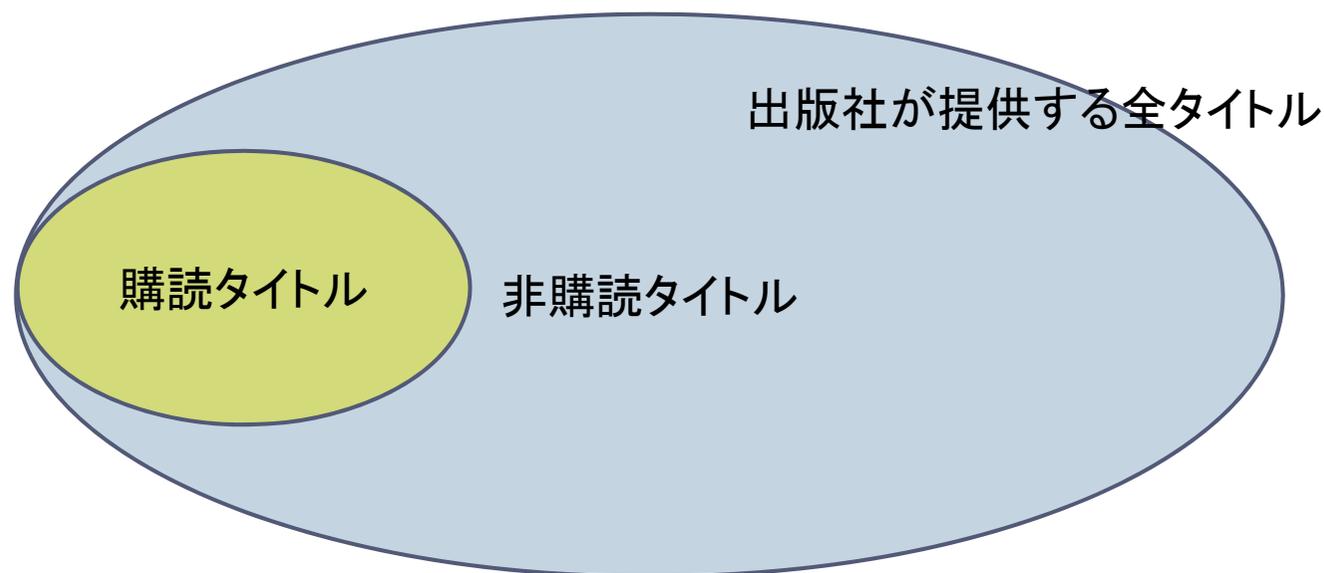
- タイトル単位 (Title By title)
- セット
- パッケージ (ビッグディール契約)
- 論文単位 (Pay per view)



電子ジャーナルの契約

パッケージ契約

- 出版社が、購読タイトルの契約維持を条件に、非購読タイトルへのアクセス権を安価に提供する契約※



※大学規模、FTE、DL数をベースに価格を決定する契約もあり。

電子ジャーナルの契約

パッケージ契約のメリット・デメリット

- メリット

- もし、非購読タイトルに機関としての需要があれば、非常にコストパフォーマンスの高い契約となりうる
- 広い分野をカバーするコレクションを利用者に提供できる

- デメリット

- 購読タイトルの契約維持に、恒常的な価格上昇が伴う
- 選択権がない。他出版社への移管タイトルがパッケージに含まれなくなるケースや、新たに不必要なタイトルが追加され、価格に積算されるケースがある



その他の電子リソース

電子ジャーナルバックファイル

過去に発行された電子ジャーナルのアクセス権について購読／購入する場合は、カレント分とは扱いが異なる。

- カレント分購入時にも、過去数年間分の範囲でバックファイルのアクセス権が提供されるが、これはほとんどの場合、カレント契約に付随する、契約期間だけアクセスが可能なサービス。
- 購読方法
 - 年間購読 …… 契約期間だけアクセス可能とする
 - 買い切り …… 恒久的なアクセス権の購入
ただし、少額のメンテナンスフィー(保守費用)が発生する場合も多い



その他の電子リソース

アグリゲータ Aggregator

複数出版社の電子ジャーナル等を分野等でまとめて提供する業者およびサービス。

- 購読方法
 - 年間購読
- 契約終了後アクセス権は残らない(契約期間のみ提供)
- エンバーゴ Embargo
 - 発行日から数ヶ月～1年利用禁止期間があるタイトルもあり
- 抄録のみのタイトルもあり



その他の電子リソース

電子ブック

- 購読方法
 - 年間購読
 - 買い切り
 - Pay per view ダウンロード型
 - Patron-Driven-Acquisition (PDA)

 - 無料の電子ブック
- ex) 青空文庫, 等



その他の電子リソース

データベース

- 購読方法
 - 年間・月間購読が主流
- 種類
 - 一次資料
 - 雑誌論文・記事 ex) EBSCOhost, ProQuest 等
 - 新聞記事 ex) 日経電子版, 聞蔵, ヨミダス 等
 - ファクト(実験・観測データ) ex) SpringerMaterials 等
 - 二次資料
 - 辞典・辞書・人物情報・便覧・年表
ex) Japan Knowledge, KOD 等
 - 書誌・目録・引用文献・抄録
ex) Web of Science, Scopus, SciFinder 等



電子リソースの提供

提供の準備

- アクティベート(一部の電子ジャーナル)
- アクセスチェック
- 統計管理
- リモートアクセス環境
VPN / Shibboleth認証(学認) / プロキシサーバ経由
- お知らせ



電子リソースの提供

契約同意書 License Agreement

サービス提供する上で確認して置きたいこと

- 利用者の定義 Authorized Users

Walk-in-user は？

- リモートアクセスの可否

可能な場合、その方法・対象者も要確認

- ILLの可否

- 利用制限

システムによる自動ダウンロードの禁止、大量ダウンロードの禁止、認められた利用者の個人利用に限定、データを改ざんして利用することの禁止

→ 違反すると全学の利用が停止になることも



電子リソースの提供

アクセス提供の方法

- OPAC登録
 - タイトルリスト
 - リンクリゾルバ
 - ディスカバリーサービス
- 各機関の状況に合わせて、取捨選択

....利用者は、Google等から、意識せず使うことも



課題

電子リソースの管理

増加しつづけ、刻々と変化する電子リソースは、従来の図書館システムで管理することは難しい。

- 別途エクセル等で管理
- ERMS(電子リソース管理システム)
- ERDB プロトタイプ構築プロジェクト
 - ナレッジベース、APIを利用し、電子リソースのデータ共有を行うための基盤構築することを目指す



課題

永続的なアクセス保障

図書館に所蔵する冊子のように、今後も利用できるか？

- アーカイブ権のある契約であれば、永続的なアクセス (Perpetual Access) を保障するとあるけれど
- サーバを管理する出版社がなくなったら....

→ 保存プロジェクト ex) Portico, CLOCKSS, 等



課題

外国雑誌の価格上昇

- 現在でも、恒常的な価格上昇は続いている
価格上昇率 年平均 7.8% (1995-2011年)

- 代替性がないため、価格競争がおきにくい
- 論文数の増加
- 商業出版社の市場寡占

→ 学術雑誌出版の費用負担をどうすべきか？



オープンアクセスとリポジトリ

オープンアクセス Open Access

インターネット上で論文全文を公開し、無料で自由にアクセスできるようにすること

(背景)

- 研究者は自らの研究成果をより多くの人へ発信
- 価格高騰への対応策として
- 公的資金による研究成果は無償公開されるべき



オープンアクセスとリポジトリ

オープンアクセス・ジャーナル

多くの場合、著者が支払う論文出版加工料 Article Processing Charge (APC) によって、出版費用を賄い、電子ジャーナルを無料公開

- ハイブリッド型
著者がAPCを支払い、オープンアクセスにするか
選択できるが、購読料支払によって読む論文も残る。
Nature Communications 等
- オープンアクセスメガジャーナルの創刊
PloS ONE
- 購読料振替型
SCOAP³



オープンアクセスとリポジトリ

機関リポジトリ Institute Repository

大学等の研究機関が、構成員の作成した知的生産物を電子的形態で収集・保存し、無料で公開することを目的として設置するアーカイブシステム

- オープンアクセス推進
 - 学術情報流通の変革
- 大学の研究成果を社会へ還元
 - 社会・地域貢献や大学のブランド力の向上



さいごに

<参考文献>

大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE). 電子資料契約実務必携.
平成24年3月発行

文部科学省. 学術情報基盤実態調査.

http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/jouhoukiban/1266792.htm (参照
2013-12-3)

Budapest Open Access Initiative.

<http://budapestopenaccessinitiative.org/> (参照2013-12-3)

Stephen Bosch & Kittie Henderson. “The Winds of Change | Periodicals Price Survey
2013”. Library Journal <http://lj.libraryjournal.com/> (参照2013-12-3)

国立情報学研究所 ERDBプロトタイプ構築プロジェクト

<http://www.nii.ac.jp/content/erdb/> (参照2013-12-3)



さいごに

ご清聴ありがとうございました。

